

## 自己評価報告書(最終報告)

コース等名

学校・学級経営コース

記載責任者

兼松 儀郎

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 大学院の学生定員の充足

貴専攻・コースにおける過去5年間の大学院学生定員充足状況を分析・検証し、達成目標を設定するとともに、どのような具体的方策を立てて、目標達成に向けて取り組んでいくかを示して欲しい。

## 1. 目標・計画

- ①学校・学級経営コースの定員は1学年10名であり、入学者数は、平成20年度は14名、平成21年度は12名、平成22年度は13名、平成23年度は11名であり、定員を充足している。
- ②今後、派遣実績のある教育委員会へはもとより、派遣実績のない教育委員会への働きかけを、教職大学院全体の取組と歩調を合わせて行う。
- ③学内・学外の大学院説明会に積極的に参加するとともに、教員個々人のルートを通じて派遣依頼を行う。
- ④学校・学級経営コースの修了生を通して、教職大学院での学修成果のPRを図る。

## 2. 点検・評価

- ①学校・学級経営コースの定員は1学年10名であり、平成24年度入学予定者は10名であり、定員を充足している。
- ②四国4県をはじめ教育委員会への働きかけを、教職大学院全体の取組と合わせて積極的に行い、派遣要請を行った。
- ③学内・学外の大学院説明会に積極的に参加するとともに、教員個々人のルートを通じて派遣依頼を行った。
- ④教職大学院News Letterの配付や学修成果発表会を通し、学修成果のPRを図った。

## I-2. 学生支援の取り組み

学生の卒業時・修了時における「質」保証のためには、常日頃から学生に対する支援を推進していくことが必要である。  
貴専攻・コースにおけるこれまでの学生支援の取り組み状況を分析・把握し、本年度どのような学生支援の取り組みを行うか、具体的な方策を示して欲しい。

## 1. 目標・計画

- 教育の質の保証を高等教育の重要課題ととらえ、平成22年度は教職大学院のFDの取組を中心に、授業研究、授業評価(観点別評価を含む。)などを行ってきた。  
平成23年度の取組として、
- ①教育方法については、各授業科目間の内容の調整、学生の授業負担(レポート、報告等)を考慮に入れた授業形態の調整等を行い、教職大学院における学修成果が確実なものとなるよう、指導の在り方を工夫する。
  - ②評価方法については、観点別評価を含む授業評価を行う。
  - ③2年次生の実習については、学校訪問等を通じて円滑な実施に努める。
  - ④教職大学院全体と協力しながら、コース学生の学習環境の整備に取り組む。

## 2. 点検・評価

- ①授業展開については、教員間の意思疎通を図り、教職大学院における学修成果が確実なものとなるよう到達目標を設定し、また討論や事例研究など授業形態を工夫した。
- ②評価方法については、観点別評価を含む授業評価を行うとともに、評価結果を授業改善にいかすよう努めた。
- ③2年次生の学校課題フィールドワーク及び異校種フィールドワークについては、学校訪問等を通じて円滑な実施に努めた。
- ④教職大学院全体と協力しながら、院生室やコピー室など学習環境の整備に取り組んだ。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①教職大学院として、授業、カリキュラムの評価、改善に取り組む。
- ②学生の意見や要望を聞く機会を設ける。
- ③コース教員全員が協力して学生を指導する体制をとる。
- ④専攻全体と協力しながら、コース学生の学習環境の整備に取り組む。

## 2. 点検・評価

- ①教職大学院として、平成25年度実施に向けてカリキュラムの改善に取り組んだ。
- ②大学院の授業、学校課題フィールドワークや異校種フィールドワークなどについて学生の意見や要望を聞く機会を設けた。
- ③授業や実習について、コース教員全員が協力して学生を指導する体制をとった。
- ④教職大学院全体と協力しながら、院生室やコピー室など学習環境の整備に取り組んだ。(再掲)

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①各自の研究課題について研究を進め、研究成果を授業に反映できるよう努力する。
- ②学会発表など学会活動に積極的に参画するとともに、学会誌、大学研究紀要等における論文発表に努める。
- ③科学研究費補助金等による研究を遂行するとともに、平成24年度に向けて積極的に応募する。

## 2. 点検・評価

- ①各自の研究課題について研究を進め、積極的に研究成果を授業に反映させるとともに、学会発表を行った。
- ②学会発表など学会活動に積極的に参画するとともに、学会誌、大学研究紀要等における論文発表に努めた。
- ③科学研究費補助金等による研究を遂行するとともに、平成24年度に向けて積極的に応募した。
- ④教育研究支援プロジェクト経費が採択された。

## Ⅱ-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①学内委員会に積極的に関与し、教育部会議にて議題・報告事項についての確に情報提供するとともに、大学運営の改善に関する意見の集約に努める。
- ②教職大学院におけるFDに積極的に関与し、授業改善はもとより、専攻・コース内の課題を探る。
- ③教職大学院全体の運営に協力するとともに、学生の状況や物的環境、財政状況等について情報の共有を図る。
- ④コース会議等を通じてコースの円滑な運営を図るとともに、文書回覧については電子メールを利用するなど、効率化・省資源化に努める。

### 2. 点検・評価

- ①コース教員が基礎・臨床系教育部長を務めるとともに、各自が所属する学内委員会に積極的に関与し、教育部会議において的確に情報提供した。
- ②教職大学院におけるFDに積極的に関与し、授業改善に努めた。
- ③教職大学院全体の運営に協力するとともに、コース院生の研究の進捗状況や研究環境等について情報の共有を図った。
- ④コース運営については、本年度から電子メールを積極的に利用するなど、効率化・省資源化に努めた。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①学生の所属校及び教育委員会との連携を緊密にし、協働関係を構築する。
- ②教育委員会や学校からの講演・研修依頼等を積極的に引き受け、教職大学院のアピールの場としても活用する。
- ③修了生の学校や関係教育委員会との連携を重視し、フォローアップ体制をとる。
- ④学会等の役員や審議会等の委員を積極的に引き受け、社会貢献に努める。

### 2. 点検・評価

- ①鈴鹿市教育委員会との連携に多大なる貢献をした。
- ②学生の置籍校及び関係教育委員会との連携を緊密にし、協働関係を構築した。
- ③教育委員会や学校からの講演・研修依頼等を積極的に引き受けた。
- ④修了生の学校や関係教育委員会との連携を重視し、フォローアップを行った。
- ⑤学会等の役員や審議会等の委員を積極的に引き受け、社会貢献に努めた。
- ⑥教員免許状更新講習の授業を担当した。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ①鈴鹿市教育委員会との連携について、本コース教員が積極的に貢献した。
- ②教職大学院の組織改編、カリキュラム改善について、本コース教員が積極的に関与した。